

第6.1節 用賀村の名主 飯田平兵衛

2019年05月 第15号

世田谷が出てくる本を眺めると、「プリズム」(百田百樹著)(成城)、「バー・リバーサイド」(吉村嘉彦著)(二子玉川)、「春の庭」(柴崎由香著)(世田谷線沿線)、「東京随筆」(赤瀬川原平著)(「世田谷区の16の町」)、「下北サンデーズ」(石田衣良著)(下北沢)、「火花」(又吉直樹著)(三軒茶屋・下北沢・池尻大橋)、「三軒茶屋星座館」(柴崎竜人著)(三軒茶屋のプラネタリウム)等多数が記載されています。

今回は、毎回講演やパネルディスカッションの開催時にお世話になっている二子玉川夢キャンパスに隣接した用賀にゆかりの人について、お話しをします。

6.1.1 飯田家と飯田平兵衛

用賀村の名主は飯田平兵衛(出生年不詳～1763年)といい、用賀出身で名は吉純(よしずみ)です。飯田家が用賀に住み始めたのは飯田図書吉慶(いいだずしよよしやす)(1573年没)で、その父は北条氏の家臣でした。吉慶は用賀村に土着して開発に努め、用賀四丁目の真福寺は吉慶の開基です。代々用賀村の名主を務め、その六代目が平兵衛吉純です。元文4年(1739)飯田平兵衛と大場六兵衛(世田ヶ谷県令)が代官を命じられ、この年から幕末まで世田谷代官は複数制になりました。

飯田平兵衛は次節で示す農業用水問題を解決したことで知られています。

6.1.2 用賀村の危機

用賀村が灌漑用の水を導水した品川用水の分水口二箇所が閉鎖されたのは、元禄2年(1689年)で、掘割をつくり玉川上水の水を引いたことが始まりです。この品川用水の恩恵に浴したのが、世田谷領の烏山、粕谷、廻沢、船場葦、横根、弦巻、新町、野沢、用賀の各村です。数か所の分水口から品川用水の水を引き入れましたが、問題が発生しました。上流で水をとれば品川領への引水量は減ります。そこで、元禄2年(1689年)品川領九か村は世田谷領の村々に用水をとるなど苦情を言いましたが、それでは農作業に支障をきたし、当然収穫量も減ることになります。そこで、世田谷領の村々を相手取り、品川領九か村は勘定奉行に提訴しました。

その結果、元禄2年に世田谷領村々の分水口数か所は全部閉鎖され、用賀村の二か所も閉鎖されました。あの分水口を閉鎖されては用賀村の作物は死にます、と奉行に嘆願しましたが、聞き入れてもらえませんでした。さあ、どうしよう…。そのうち他村でも水に困ったものが用水の水を盗み取る事件が発生し、犯人が捕まり手鎖の処分に会いましたが、これを聞いた弥右衛門は、このままでは同じ事件が用賀村でも起こるかもしれないと憂慮しました。

同じ思いの息子平兵衛は天神様脇の谷の様な窪地に、放し飼いの牛が入り、水を飲んでいるのを見つけ、雨水が溜まっていると思い確かめに下りました。彼の眼には、こんこんと水が湧き出ているのが見え、湧き水だ！それも相当量の湧き水、あそこを田畑向け用水地に



すればと興奮して父弥右衛門に知らせました。湧き水を見た弥右衛門は「平兵衛よ、天神様のご加護かも知れない」と声を震わせました。平兵衛は心中、品川用水の漏れ水だ、用水から地中へ浸み込んだ水が窪地に湧き出たと思いました。早速、村の主だったものを集め、池を掘って大きくしようと相談しました。村人総動員です。一方、平兵衛は仕事の合間を見て、飯田家の先祖飯田図書が開基の真福寺（現在地は世田谷区用賀 4-14-4）へ、用水地の無事完成に心を込めて祈願しました。こうして、長い年月と激しい労苦の末に、田畑向け用水地が完成したのが享保5年（1720年）で、分水口が閉鎖されて31年もの歳月が流れました。

出来上がった用水地は昭和10年頃まで残っていたそうです。藩も用賀村村民の労苦を多として、お米48俵を贈ったそうです。また、平兵衛は真福寺にお礼の気持ちを込めて、元文3年（1736年）願主飯田吉純、施主村中男女として、高さ3mは有る立派な宝きょう印塔を寺内に建立しました。これは現在も本堂左脇に残り、当時の歴史を物語っています。翌元文4年（1737年）、平兵衛吉純が世田谷代官に任ぜられたのも、藩が彼の功績を高く評価したからに相違ないからでしょう。

耳寄り情報

辛坊治郎氏の著書で、興味を引くことが目に留まりました。なぜ免疫力を強化しても、ガンが治らないのか。通常成人の体は、40兆個ほどの細胞から出来ています。この細胞はほぼ2年間で全部新しい細胞と入れ替わり、毎日相当数の細胞が体内でコピーされているのです。でも、常に完璧にコピーしているのではなく、1日当たり数千個のコピーミス細胞（がん細胞等）が生まれ、免疫システムによってウイルス等と一緒に駆除されます。だから、そう簡単にはガンにならないのですが、その様なガン細胞の中に免疫細胞に差し込む「鍵」の様なものを持つ細胞があり、そのカギを使用すると免疫組織がガン細胞を攻撃しなくなるそうです。そうすると、免疫力をいくら強化しても無駄になり、これが従来の免疫療法が効かなかった理由です。

ノーベル賞を受賞した本庶先生は、このメカニズムを解明し、大阪の小野薬品をプッシュして、アメリカの研究所に協力を依頼。免疫細胞の鍵穴を塞ぐ薬を開発しました。ガン細胞がカギを使用したくても、カギ穴がふさがっているので、体の隅々に転移したガン細胞が免疫システムで攻撃できることになりました。

問題は、がんに効くメカニズムが確立しても、この薬を一度使用し始めて効果が出ると、基本的に一生使用することになりますが、副作用が現れて使用を中止しても最大約10か月は薬の効果が残ることが知られています。更にこの薬は初に健康保険で認可された時には、日本でわずかに470人しか存在しない特殊な皮膚ガンの薬だったので、患者1人に1年間使用すると、3,500万円という相当な金額になりました。しかも、ほぼ全額公費負担です。薬の価格は原則2年に一度しか改定されないなので、この薬代だけで保険制度が破壊されるかもしれません。患者にこの薬を使用するかどうかは医師の判断次第なので、医師の選択が患者の運命の分かれ目です。

ちなみに、この薬は、全身転移のガンが消える効果が出る人は2割程度で、病気の進行が停止する人は約2割、全く効かない人が約6割で、使用しないと効くかどうか判らない薬です。「運次第」になりそうです。現在は、ステージ3で他の治療で延命出来る患者への使用が始まっているそうです。早く回復すると良いですね。

化学調味料については第12章に掲載しました。

第6.2節 伊福部昭と井伊直孝

2019年07月 第17号

今回は映画「ゴジラ」テーマ音楽で知られる作曲家伊福部昭と、遠州の小国から徳川家に仕え、死後法号が寺の名前となった井伊直孝についてお話しします。

6.2.1 伊福部昭

ゴジラの映画で大きな被害を被る川崎市について一言。令和初日の5月1日時点で、川崎市の人口が152万6630人となり、神戸市（152万4749人）を抜き20政令市中で第6位となりました。川崎市の人口は政令市移行翌年の1973年に100万人に。以降、首都圏での立地優位性や交通利便性の高さ、武蔵小杉駅や新百合ヶ丘駅周辺の開発などを機に人口が増加し、2017年には150万人を超え、平成の人口増加率は29.22%と政令市の中で最も高くなりました。

映画「ゴジラ」のテーマ音楽で知られるのは、伊福部昭（1914年～2006年）です。世田谷キャンパスに向かう途中のナザレン教会のすぐそばが自宅です。伊福部は、ほぼ独学で作曲家となった。日本の音楽らしさを追求した民族主義的な力強さが特徴の数多くのオーケストラ曲を生み出しました。古事記、日本書紀にも登場する古代豪族の末裔です。1935年にパリのチェレプニン賞にて「日本狂詩曲」で第1位に入賞し、世界的評価を得たクラシック音楽の作曲家でもあります。審査員の中にモーリス・ラヴェル

の名を見つけ、ラヴェルに見てもらいたいという一心で、『日本狂詩曲』を賞の規定に合わせ第1楽章「じょんがら舞曲」をカットして応募しました。戦後、東京音楽学校（現東京藝術大学）で芥川也寸志、黛敏郎等を育てた教育者でもありました。1947年に等々力、1948年に奥沢、1950年に玉川尾山町（現尾山台）に転居しました。尾山台2丁目の自宅の庭には、ゴジラの像が置かれていました。（右の写真はゴジラと握手する伊福部昭です。）



自由が丘駅近くに、伊福部行きつけのうなぎ屋が今も営業しています。

6.2.2. 井伊直孝

井伊直孝（天正18年（1590年）～万治2年（1659年））は静岡県（駿府国）で生まれ、彦根藩（滋賀県）の祖です。慶長8年（1603年）にはじめて徳川家康に出仕し、命により徳川秀忠に従いました。大坂冬の陣、夏の陣でも活躍し、秀忠の没後の佐野と世田谷で2万石を加増され、合わせて30万国の領主となりました。秀忠の遺言により家光を補佐し、名君に育て上げました。豪徳寺は文明12年（1480

年) 吉良政忠が建立し、弘徳院と名付けられましたが、その後、直孝が大檀那になり修復されました。寺名は彼の法号から付けられました。

井伊家は代々、遠州・井伊谷城にあって、中国大名・今川氏真に仕え、名もない豪族でしたが、父・直政が二歳の時、祖父は氏真に殺されました。のちに、徳川家に仕官して忠勤を励むようになりました。直政は各地で戦功を立て、家康子飼いの「四天王」隋一と呼ばれ、宣伝効果を心得た智謀の持ち主でした。出陣には一族郎党に赤い甲冑と武具を付けさせ、華々しく戦場に臨み、敵は「井伊の赤備え」直政を「井伊の赤鬼」と恐れ、戦わないで逃げ出すようになりました。家康亡き後、直孝を父親の様に慕っていた秀忠は寛永9年(1632年)一月病床に直孝を呼び、幕府の執権(後の大老)となり、將軍家光を補佐せよと遺言をしました。直孝は知恵伊豆と言われる松平信綱他の賢候を抜擢して善政を敷きました。



明礫3年(1657年)の振袖火事で江戸大半が焼失、直孝は御金蔵(ごきんぞう)を開いて、大名旗本は勿論、町民に銀一万両を与え、餓死寸前の者には、世田ヶ谷、佐野の領地からコメを運び施しました。大火に懲りた諸侯は、失火者一族を火刑にする案を出しましたが、「仕置は万人等しきもの、大名とて免かれぬ」と戒め、諸侯は肝をつぶして撤回しました。家康、秀忠、家光、家綱と四代に仕え、大老として御用部屋を取り仕切った直孝は、国許の彦根に帰る余裕が無く江戸で暮らしました。当時世田谷



は小動物が群生して、絶好の狩場でした。本来巻狩りは、兵馬を鍛錬する催しだが、泰平になるにつれ鷹狩となり、現代のゴルフの様に、諸侯の間で社交化しました。家光は血気に逸る(はやる)將軍なので、鷹狩に誘い余人を交えないで諫言し、神君の生まれ変わりと言われる名君に育て上げました。豪徳寺を舞台とした招き猫の伝説は、鷹狩の途次の出来事と伝えられています。

耳寄り情報

1) テント屋の辛酸

昨年（2018年）は東京ドーム完業30年でした。皆様ご存知の様に、東京都文京区後楽一丁目のドーム型屋根付きのプロ野球読売巨人軍の専用球場です。起工式は1985年（昭和60年）5月16日で竣工（完成）は1988年（昭和63年）3月18日です。

雨天中止がなくなったプロ野球、夢の球場に日本中が驚きました。可能にしたのは、テフロンで強化した布製の膜材を屋根に使う「膜構造建築」技術で、その陰にはテント一筋に生きてきた技術者達の意地をかけた壮絶な物語がありました。

昭和45年の大阪万博で、最も注目を集めた建物は、世界初のエアドーム「アメリカ館」でした。柱を使わず、空気圧だけで膜屋根を支え、工期が短く、コストも安価でした。手がけたのは、戦後ミシン一台で出発したテント会社・太陽工業の技術者達です。しかし、万博終了後「アメリカ館」は、あえなく燃やされたのです。当時の建築基準法では膜屋根は「仮設」扱いなので、恒久建築物には使えなかったのです。「所詮、俺たちはテント屋か。」技術者たちは辛酸をなめました。

それから10年が過ぎ、「テント屋」達に再びチャンスが巡ってきました。プロ野球の檜舞台・後楽園球場に代わる、屋根付き球場建設計画が持ち上がったのです。オイルショックによる不況、スター選手の引退。新球場は、低迷する興行成績の挽回策だったのです。

2) プロ野球と後楽園球場の歴史

日本でプロ野球が本格的に開始したのは1936年（昭和11年）で、当時の東京府内では明治神宮野球場がありましたが、東京六大学野球リーグの反発で使用出来なかった様でした。そのため、プロ野球の試合は早稲田大学の戸塚球場を借り、杉並区の上井草球場や深川の洲崎球場を造成しました。上井草球場は収容人数3万人で交通の便が悪く、洲崎球場は満潮時には球場を浸水することがたびたび起こった様です。

日本運動協会の創始者河野安通氏（フランチャイズ制を提唱）や押川清氏らの呼びかけで、読売新聞社の正力松太郎氏や阪急電鉄の小林一三氏の出資協力により、1936年（昭和11年）12月に（株）後楽園スタジアムを設立し、東京砲兵工廠の跡地の国有地を払い下げ、内野2階建てスタンド、グラウンドの最前線迄スタンドがせり出す形式の野球場となりました。1937年（昭和12年）に開業され、隣接の小石川後楽園にちなんで命名されました。

その後の洲崎野球場や上井草野球場の閉鎖で、後楽園球場が東京のプロ野球の拠点となっています。球場の両翼が78mしかなく、ホームランが頻発されました。

第二次世界大戦末期には軍に摂取され、二階席の高射砲を見上げながら、グラウンドでじゃがいもやトウモロコシが栽培されていました。終戦の1945年（昭和20年）には早慶戦やプロ野球の東西対抗戦等が行われましたが、GHQ（連合国軍総司令部）から接收命令が出ました。この接收は6日間と短い物でした。

1950年（昭和25年）にはナイター設備の設置や、1958年（昭和33年）には両翼を78mから90mに拡張し、敗戦国日本の楽しみを生み出す努力が感じられます。そして、日本最多の本塁打数を誇る王貞治氏は、節目となる本塁打の多くをこの球場で打ちました。特に、1977年（昭和52年）にはハンク・アーロン選手が保持していたMLB記録を超える756号の達成や、1978年（昭和53年）の800号達成

時には、セレモニーが行われました。

3) 東京ドームの建設

全体施工を担当する竹中工務店と、太陽工業とのプロジェクトは、法律の壁を突破するため、実験棟を建て、台風の中、安全性を証明するデータを集めました。建設省に日参し、やっと建築許可を得たものの、今度は近隣の日照権問題が発生し、やむなく屋根を北側に傾斜させる前代未聞の設計になったのです。一枚一枚異なる布の強度。膜を支えるケーブルの微妙な張り具合。傾斜屋根は、さらに作業を複雑で困難なものにした。

そして迎えた「インフレート（空気圧で屋根を押し上げる最後の作業）」の日。一つ間違えばケーブルが大きく跳ね、膜を破ってしまいます。メンバーは、厚さ0.8ミリの膜屋根の上に乗って、命がけで作業に当たりました。当時は住友ツインビルの建設と重なり、東京ドームの建設会社である竹中工務店の職員が型枠大工（コンクリート（躯体）製の建物を造る時、コンクリートを流し込むための枠を作成し、組立て解体するまでの一連の作業工事をする人）を住友ツインビルに取られて困っていた様です。

4) こけら落とし

初めて東京ドーム公演を行ったのは、ミック・ジャガーです。ただ、開業すぐはこけらおとし期間のようなものが設けられ、TM NETWORK など日本人アーティストも数組出演し、その中の一組がレベッカです。ドーム特有の苦労話があります。

「ドームは、飛行機と同じように、中と外で気圧が違うんです。そのため、出し入れするたびに気圧を調整しなきゃならない。トラック1台を出し入れするだけで30分かかったんです。しかもドーム公演では11tトラックが60~70台くらい必要で…。それでも、あれだけの広さがあれば、演出のしがいがあるというもの。どこからでも見えるセンターステージとか、空中演出とか、『誰もやったことがないことをやってやる!』と、やる気がみなぎるんです」

「ある意味、アーティストの集大成を見せる場であり、動員数における最高到達点。BOOWY、HOUND DOG らが、東京ドーム公演を最後に解散していったのは、“のぼり詰めると、日本ではその先がなかった”ことを暗示しているかのようです」。

「メガヒットの時代が到来し、GLAY、ミスチル、安室奈美恵、B'zといった、継続的にドーム公演ができるアーティストが出現。さらに各地にドームが造られ、今やドームツアーが当たり前です。嵐を筆頭に新たなライブ演出が続々と生まれ、新時代の熱狂が巻き起こっている。国立競技場も新しくなりますよね。大規模ライブエンターテインメントの今後にも注目です」(音楽ジャーナリスト)

5) 東京ドームのデータ

グラウンド面積 13000 m²、両翼 100m、中堅 122m、左右中間 110m

46000人 野球開催時 57000人 コンサート開催時

建築面積 46755 m²、建物高さ 56.91m

地上6階 地下2階 外野フェンスの高さ 4.2m

グラウンド面から屋根の高さ 61.69m

6) 野球に関する特別ルール

東京ドームは打球が天井や懸垂物に当たった場合などに備えて特別ルールの「東京ドーム特別規約」が設けている

食品添加物については第12章に掲載しました

第6.3節 石川達三

2019年09月 第19号

今回は作家石川達三に焦点を当て、彼の作品や生きざまについてお話しします

6.3.1 作家 石川達三

石川達三（明治38年（1905年）～昭和60年（1985年））は秋田県出身の34歳で小説家です。

達三の父は英語教師で、良く職場が変わり秋田、岡山、東京と各地を転々とし、達三は大きくなり単身上京してからも、都内を12、3箇所も移動をしました。

この頃まで達三の人生には数多の失敗が多く、府立一中（後の日比谷高校）や岡山の旧制六高を目指しましたが、いずれも試験に落ちて入れませんでした。小説を書く様になったのはその頃からです。結局早稲田大学へ進みますが、学費が続かないで退学し、電機業界誌の編集者となりました。社会人になり、実業界の空気にふれた達三は、小説を書く意欲を喪失し人生の転機を求めてブラジル移民の群に加わり、サンパウロ奥地の日本人農園で働きましたが、それも長続きしないで、半年で帰国しました。

ブラジルで達三が見たのは、希望に燃えた開拓者ではなく、国を追われる様にして流されていく貧しい人々でした。なんとしてもこの現実を書かなくてはならないと思いたち、今までの自分の小説は「文学ごっこ」に過ぎなかったと痛感しました。これが転機となり、出国を控えたブラジル移民が集められた神戸の移民収容所を舞台とした小説「蒼茫」を作り上げ、それが第1回芥川賞に輝きました。昭和10年（1935年）のことです。

当時の芥川賞は、たいして世間の注目を集めませんでした。この時最終予選に残った新進作家に、後に活躍する太宰治、高見順、外村繁がいたことからわかる様に、この賞はやはり権威のある賞でした。この受賞を契機に達三は猛然と小説を書き始めます。

昭和15年（1940年）世田谷区の奥沢に越してきますが、その三年程前に結婚した達三は、この時34歳で二人の娘の父親でした。以後昭和38年（1963年）まで世田谷区の奥沢に住みました。

家は九品仏駅のそばで、廻りは麦畑、踏切の向こうの玉川聖学院付近は一带が田圃で、夏には蛙の音がやかましかった様です。近くに有った池ではザリガニが取れ、越してきてから長男が誕生しました。「九品仏は東京でありながら適当に田舎だ。田舎だけれども東京の文化的なものはすべて備わっている。子供を育てる環境としては一番いい所ではないかと思う。」と達三は書いています。

越してきて間もなく、太平洋戦争が始まるとすぐに東京はB29の爆撃にさらされました。その戦火を避けて都心から人々が移転してきました。達三は隣組に駆り出され、東の空が焼夷弾に赤く染まるのを見ながら、近所の消火槽の点検に飛び回り、高射砲から打ち出された砲弾の破片が落ちてきて達三の耳元をかすめたことも有った様です。空襲の炎は自由が丘迄嘗め尽くしましたが、達三の家はかろうじて焼けずに済みました。

戦中から戦後にかけては、都会人も野菜を育てて食料不足を凌ごうとし、達三も庭に5坪の畑を作る、敷地を買いましたが、茅（かや）や薄（すすき）が自生していた荒地だったので、すぐに雑草がはびこりました。結局、雑草との戦いに明け暮れ、めぼしい収穫は得られませんでした。

いったん奥沢に落ち着くと、昭和38年（1963年）に田園調布へ引っ越す迄、ここに留まって子供達の成長を見守りました。



6.3.2 奥沢での執筆活動

人口増加に伴い、八幡小学校と尾山台小学校から分離した九品仏小学校が昭和27年（1952年）に誕生すると、その初代PTA会長になりました。「自分の子供たちを、あまり都会的な小生意気な人間にしていまいたくない。また、あまり泥臭い田舎のものにしていまいたくない。そういう点、九品仏は東京でありながら適当に田舎だ」と言っていました

達三は長男を何々付属校と言った学校に入学させることが出来ましたが、あえて普通の学校に進ませました。じきに、近所の子供たちが遊びに来て、庭の柿の実をもらったり、蝉を取ったりする様になり、九品仏小学校のPTA会長も務めました。そこで、教育現場の実情に触れ、それが「人間の壁」を書く一つのきっかけになりました。

戦前の日本には言論活動を取り締まる厳しい法律や規則があり、石川達三は裁判にかけられても創作意欲はそがれませんでした。戦争や社会問題以外にも書くことがありすぎて、筆が追いつかない程で、午前中と午後と夜と三種類の作品を平行して書いていたのです。

小説において奥沢時代の収穫は大きく、戦時下の言論弾圧に取材した「風にそよぐ葦」、教師のあり方を問う「人間の壁」、初老のサラリーマンと若者達のかかわりを描いた「四十八歳の抵抗」等の新聞連載小説は、いずれも奥沢の家で書かれたものです。

6.3.3 達三の生きざま

雑誌の特派員として、日中戦争のさなか中国へ渡ると、「生きてゐる兵隊」を書き、戦争の陰鬱な実状をしつこく書いたので、当局の怒りを買って新聞紙法問われ発禁処分となり、禁固4ヶ月執行猶予3年の判決を受けました。達三は法廷で、「もっと本当の人間を見、その上に真の信頼を打ち立てなければ駄目だ」と、昂然と言い切っています。当時としては非常に勇気を要する発言であり、真実を見極めようとする目、ヒューマンな正義感は以後の作家の姿勢にも一貫しています。その作風も『蒼氓』以来ほぼ一貫し、社会性の強いテーマをルポルタージュ手法で描き出すのに特徴があります。

達三は毎晩杯を片手に家族との団欒に加わり、戦前から始めたゴルフはかなりの腕前でした。戦後は油絵にも手を染め、幾度も展覧会を開きました。文壇のまとめ役として、日本文芸家協会理事長、日本ペンクラブ会長等を務め、晩年は芸術院会員になり、一時は政治家を志し、戦後初の衆議院選挙に立候補しましたが落選し、結局作家に専念しました。

次に越した大田区田園調布も、奥沢の隣町で、世田谷区、大田区、目黒区が境を接し、多摩川に出られる一体で、達三は後半生45年を送ったことになります。半世紀もたてば世の中は大きく変わり、多くのブラジル移民の様に、貧しさ故国を捨てる人は殆どいなくなりました。逆に繁栄の日本を目指して外国から「蒼茫」達が流れ込む様になりました。あたりの風景も一変し、もう蛙の大合唱は聞こえません。今は田園が住宅街に替わり、自由が丘にはしゃれた店舗が立ち並び、屈託なく闊歩する若者で賑わっています。

石川達三は2005年のNHKTV番組「あの人に会いたい」で、「広い社会機構にぶつかって掘り下げ、現実をつかみ出す作品を書きたい」との言葉を残しています。

人柄が判ります。昭和のさまざまな世相を描いた石川達三は昭和60年（1985年）1月、79歳の生涯を閉じました。



人生を豊かに（雑学のすすめ）

先日、落語家で人間国宝でもある柳家小三治師匠の弟子、柳家一琴師匠の落語と講演会に参加しました。面白い内容でしたので、内容をかいつまんで説明します。

- ② 落語家の三大原則は「酒・女・博打」。
- ③ 落語家は古典芸能を人に教える商売である。
- ③ 柳家小三治師匠に入門する時に言われた事は、標準語を覚えること（一琴は大阪出身）、東京弁を覚えること、江戸弁を覚えること、鼻濁音は鼻から抜くこと。破裂音をそのまま発音すると、会話が汚く聞こえる。
- ④ 入門時は身長 160 c m、体重 100kg だったので、見た目は痩せて見える様にする。入門後は、リバウンドで体重が 110kg になった。
- ⑤ 師匠は小話（隣の垣根と塀等）を覚えないと、落語を教えてくれない。この小話を覚えることを怠ると、落語の一席で大きなしくじりをする。
- ⑥ 古典芸能程、今の時代を取り入れないと残らない。今を知らないと、古典が語れない。
- ⑦ 落語家は持ち時間が重要。
- ⑧ 落語の一席は 15 分程度だが、聴衆や雰囲気を見て、ストーリーの順番を入れ替え、場を盛り上げる。落語は起承転結が大事なので、毎日の稽古を続けることで、話の内容が見えてくる。
- ⑨ 落語は初めて話す様に、話すことが重要。ミュージカルでも初日はうまく出来るが、2 回目はミスが出やすい。初日は緊張をしているからである。だから、毎日が初日の気持ちで高座を務めることが重要。
- ⑩ 毎日のけいこの積み重ねは、裏切らない。
- ⑪ 人間が最初に感じるのは嫉妬である。例えば、兄弟が生まれ、親の愛情が移っていると感じる時等がある。嫉妬してはいけない。落語家は家柄が大事で、たとえ自分よりもへたでギャラが 10 倍以上貰っている落語家がいっても、嫉妬してはいけない。（現在の林家三平を指している）
- ⑫ 相手の落語家が自分よりもへたと思う時は、相手は自分と同程度、うまいと思う時は自分よりはかなり上手、かなり上手と思う時は相当に上手である。
- ⑬ 小さなごまかしは徐々に膨らみ、收拾がつかない位に大きくなる。
- ⑭ 油断をしないで、毎日新しい気持ちで生きることが重要である。（ポイント）

耳寄り情報

トヨタは 2009 年から 2013 年迄、税金を払っていないことで有名です。巧妙なからくりとは？最大の理由は、「外国子会社からの受取配当の益金不算入」という制度が有るからです。外国の子会社から配当を受け取った場合、その 95%は課税対象から除外されます。例えば、ある企業が外国子会社から 1,000 億円の配当を受けたとします。この企業は、この 1,000 億円の配当収入のうち、950 億円を課税収入から除外出来るのです。つまり 950 億円の収入については無税となります。

何故この様な制度が有るのでしょうか。現地国と日本で二重に課税されることを防止するという建前です。外国子会社からの配当は、現地で税金が源泉徴収されているケースが多いのです。もともと現地

で税金を払っている収入なので、日本では税金を払わなくても良いという理屈です。現地国で払う税金（例えば30%）と日本で払う税金が同額ならばその理屈も良いでしょう。しかし、配当金の税金は世界的に見て、法人税よりも安いのです。

つまり、現地で払う税金は、日本で払うべき税金はよりもかなり少なくて済むのです。例えば、1,000億円の配当が有った場合、現地での源泉徴収額は約100億円ですが、日本で1,000億円の収入が有った場合、本来は300億円の税金を払わなくてはなりません。現地で100億円の税金を払っているとの理由で、日本で支払うべき約300億円の税金を免除しているのです。配当に対する税金は、世界的に約10%前後ですが、途上国やタックスヘイブンと呼ばれる地域では、ゼロに近い場所も多いのです。

アメリカの子会社が日本の本社に配当した場合、源泉徴収額は10%ですが、日本の法人税は国税+地方税で約30%です。日本で支払うべき300億円からアメリカで支払った100億円を差し引き、残りの200億円を日本で支払うべきでしょう。ここが税制の「抜け穴」です。

我々の生活に大きな影響を与えているのは消費税です。この消費税の創設に、実はトヨタが大きく関わっていました。そもそも消費税の導入は、財界の強い要望で実現しました。消費税の導入時に、大きな税金が一つ廃止されています。それは「物品税」です。物品税は、簡単に言うと宝石、ブランド品、自動車等に課せられる「贅沢税」でした。この物品税は戦後すぐに導入され、国民生活に根付いていました。物品税が有った当時は、国民の消費はおおむね上向きなので、贅沢品に対する課税は、必然的に高額所得者が負担していました。この物品税は税の徴収方法もきちんと管理され、徴税効果が高かったのです。

消費税は該当事業者が膨大で、集計計算も複雑なので、徴税効果が悪いのです。簡単に言えば、消費者が払った消費税がそのまま国庫に納入されないで、事業者のところで漏れることが有るのです。それに比べ、物品税は該当事業者が少なく、徴税経路も単純なので、徴税効率はほぼ100%に近かったのです。消費税に比べれば、格段に効率的な税金でした。

何故、物品税を廃止して消費税を導入したのでしょうか。それは物品税に該当する業種の団体が、執拗に政治家に働きかけたからです。物品税を廃止すれば、自分たちの売り上げは確実に儲かります。その業界団体の先鋒にトヨタがいたのです。自動車にかかっていた物品税の税率は、3ナンバー車が23%、5ナンバー車は18.5%、軽自動車は15.5%でした。物品税が廃止されることで、導入時の消費税3%として、トヨタの乗用車は約15%から20%も安くなりました。その後、消費税が3%から5%に引き上げられたのは1997年です。その直後に法人税と所得税も引き下げられました。その法人税の減税の対象となったのは大企業で、所得税の減税の対象となったのは高額所得者でした。消費税による増収は約10兆円ですが、この約10兆円は大企業と高額所得者への減税分で全て無くなりました。

消費税はトヨタの物品税負担をなくしただけではなく、逆に利益をもたらしました。つまり、トヨタは消費税で儲けを得ていました。消費税の仕組みの一つに「戻し税」が有ります。消費税は「国内で消費されるものだけにかかる」という建前が有ります。だから、輸出されるものには、消費税はかかりません。ところが、輸入されるものは、国内で製造する段階で、材料費等で消費税を支払っています。その為、「輸出する時に、支払った消費税を還付する」のです。それが「戻し税」です。事実上の「輸出企業への補助金」です。というのも大手の輸出企業は、製造段階できちんと消費税を払っていない企業もあるそうです。2007年から2011年迄にトヨタが受け取っていた消費税の戻し税の額は、なんと約2,000億円にもなるのです。

第6.4節 井上準之助

2019年11月 第21号

今回は駒沢に日本人で初めてゴルフ場を造った井上準之助のお話です

井上準之助は明治2年（1869年）～昭和7年（1932年）、大分県出身で、横浜正金銀行の頭取、日銀総裁、大蔵大臣等に就任した政治家・財界人です。日本で初めて、日本人によってゴルフ場を造った人物です。場所は、現在の駒沢オリンピック公園の地で、当時の駒沢は「台切山」（でんぎりやま）と呼ばれた林で、鷹や兎狩りをしていたところでした。ゴルフ場が出来ると、当時では珍しかった自動車が行き来して、駒沢は上流階級の社交場となりました。



大正12年（1923年）9月1日、東京は関東大震災で壊滅的な打撃に襲われました。その非常事態を、金融界は日本で初めてのモラトリアム（支払い猶予令）によって切り抜けましたが、その英断を下して実行に移したのが、日銀総裁から急遽蔵相に抜擢された井上準之助です。日本人による初めてのゴルフ場を造ることを提案し、実現にこぎつかせたのも彼でした。

明治の末頃迄、日本には神戸の六甲、神奈川県根岸、長崎の雲仙等にゴルフ場が有りましたが、すべて外国人の経営によるものでした。留学中にゴルフを覚えたとしても、東京からは六甲や雲仙は遠く、外国人所有ということで何かと気使いが多かったのです。そこで、英米帰りの人達から、東京近郊にゴルフ場は造れないものか、としばしば口端にのぼっていました。準之助もその一人でした。彼は東京帝大を卒業すると日本銀行に勤めましたが、その間、ロンドン、ニューヨーク駐在で4年程海外の地を踏んでいました。明治の末に帰国した時は、やはりゴルフの魅力に取つかれていました。

大正2年（1913年）、彼は横浜正金銀行（東京銀行の前身）の副頭取から頭取に就任しましたが、多忙にもかかわらず、仲間に「東京ゴルフ倶楽部を結成し、コースを造ってプレーを楽しもうではないか」と持ち掛けたのです。会員を募り、その出資によって土地を借り、ゴルフ場を造るというもので、仲間と方々へ回った結果、創立発起人30人が財界・政界から集まりました。そして選ばれた土地が、東京府荏原郡駒沢村で、現在の駒沢オリンピック公園の地でした。



駒沢ゴルフ場

その頃、駒沢は畑ばかりでした。ただ、玉川電車が走っていたので、その点、東京から出向くのに便利と判断されたのでしょう。しかし、話を持ち込まれた地主達は驚きました。何しろ三万坪という広さでした。それに水利の悪い高台で、この辺りは酒一升も付けなければ買い手が無いと言われていた土

地です。ましてや「ゴルフ」とかいう、見たことも聞いたこともない代物です。それに、借りたいと申し出た井上某についても「横浜正金銀行頭取」とあるが、それは一体どのような職業・地位なのか……。駒沢村の当時の地主達はあまりの突飛さに、彼を山師なのではと疑い、彼らは申し出ました。「仮契約の調印は、是非お宅で」と。

準之助は自宅では迷惑なので銀行へ来てほしいと、一旦は断りました。が、どうしても譲りません。破談になってはと恐れ、しぶしぶ承諾しました。当日、麻布三河台にある井上邸を訪れた地主たちは、準之助の心配をよそに、何事もなかった様にすんなりと調印しました。どうやら、井上邸の堂々とした大名屋敷風の門や家屋を目の当たりにして、準之助を信用し安心しました。当時の駒沢村の地主達にすれば、無理もなかったのでしょう。ましてや、ゴルフ等さっぱり分かりません。

こうして、1坪5厘の借地代が決まり、9つのホールを持つコースが設計され、大正3年（1914年）6月には6つのホールで仮開場となりました。開場当時は芝も植えられていないで、まるで畑そのものでした。白足袋を履いて行った人は、それが真っ黒になったそうです。まだ、クラブハウスも無く、キャディもいません。ゴルフボールも貴重だったので、一つ見えなくなると30分も1時間も探し続ける状況でした。

間もなく、準之助の尽力で上野の博覧会で使われた貴賓室が払い下げられることになり、赤いカーペットに洒落た椅子迄備わった、ゆったりとしたクラブハウスが出来る等、コースは次第に整えられていきました。ゴルフファンも予想を上回って増え、「駒沢は上流階級の社交場」とまで言われる様になりました。

公・侯爵から三井・岩崎といった富豪、政治家、学者とあらゆる分野の人々が駒沢の地に集まり、芝生を賑わわせました。大正11年（1922年）にはプリンス・オブ・ウェールズと皇太子（平成時代の天皇一令和の上皇）の日英親善ゴルフも、ここで開催されました。準之助は設立当初から会計を受け持ち、その後、日銀総裁、大臣となっても名誉会計として携わっていました。クラブ員は、「日本の財務長官と倶楽部の会計長が同一人物だ」と誇りにしていました。

ところが、国家を代表する偉大な財界人も、借地代の値上げを、毎年要求する地主達には頭を痛めていたのです。ゴルフ場の盛況ぶりを見ている彼らにとっては、正当な値上げ理由に映りました。加えて、開場後4、5年として三越百貨店が、すぐ近くの土地・3,000坪を坪当たり3銭5厘で借りたことは、十分な値上げ理由と言えました。地主達は「われらは井上さんに一杯



日本最初のゴルフクラブ

食わされた。こんな田舎は10年経っても同じ田舎。発展する見込みなんてない、と言われた。ところ

が今や人家もたつほどではないか」と主張し、結局坪2銭5厘に値上げすることになりました。準之助は、「片や3,000坪、こちらは3万坪。しかも、ここは道路からかなり離れた利用価値の低い所」と話してみても受け入れなかったそうです。このことが有って、借地ではなく倶楽部所有のゴルフ場を造ろう、との声が高まり、昭和6年（1931年）には朝霞コースの建設に着手しました。

その後、駒沢の土地は、昭和15年（1940年）にアジアで初めてのオリンピック大会会場になるはずでしたが、世界戦争のあおりで取り止めになったのです。しかし、戦後の昭和39年（1964年）のオリンピック東京大会ではバレーボール、重量挙げ等の会場となり、名称も「駒沢オリンピック公園」となりました。

ゴルフ場が朝霞に出来る頃の昭和7年（1932年）、右翼団体である血盟団の青年の3発の銃撃で、彼はこの世を去りました。政・財界になくてはならない井上準之助でしたが、日本ゴルフの発祥の地・駒沢を生んだことは忘れられない功績です。

人生を豊かに（雑学のすすめ）

その距離、実に38万4400km。それは人類が成し遂げた最も長い旅で、その記録は今も破られていません。彼らに乗せた強大な宇宙船に詰まれたコンピュータの性能は、今なら小学生も持っているiPhoneにすら及びません。演算速度は1メガヘルツを少し超える程度でしかなかったのです。今はギガ単位なので、桁が違います。

これは宇宙船の話題です。ジョンソン宇宙センターの管制塔でもっばら、昔ながらの道具（人の頭脳と紙と鉛筆）を頼りに働いていました。現在のスーパーコンピューターは秒単位で軌道計算を処理しますが、当時は気の遠くなる様な時間がかかりました。1969年7月20日にニール・アームストロングが人類として最初に月面を歩いてから50年が経ちました。月に行った人間は彼を含めて24人で、月面を歩いた人は、12人を数えるのみです。

月への旅は、本人たちの想定以上に宇宙飛行士を変え、月の地平線から青い地球が昇る姿を見たのも、この地球がいかに小さく儂い物かを体感したのも彼らが最初でした。彼らが月の軌道を周回している頃、地上ではベトナム戦争が続き、米ソ両国は軍拡競争に明け暮れていました。アポロ計画自体も冷戦の落し子だったのでしょう。

1969年7月16日～24日にニール・アームストロング、バズ・オールドリンと共にアポロ11号に登場し、司令船の操縦士として史上初の月面到着を見守ったのは、マイケル・コリンズです。彼は国務省を第2の職場に選び、国立航空宇宙博物館の館長を務め、現在はフロリダ州で読書と運動を楽しむ生活を送り、今年6月にはボストン・レッドソックス戦の始球式を務めました。

耳寄り情報

宇宙への民間人旅行は、2024年に1週間で約100億円/名で予定しているそうです。ZOZOTOWNの前社長の前澤友作氏（1975年11月22日生（47歳））も手を挙げていました。5分間の無重力を体験するのに1700万円もするそうです。スペースシャトル用に米国が開発した船外活動用宇宙服（Extravehicular Mobility Unit: EMU）は、1着で10.5億円（背中の生命維持装置類が9.5億円、スーツが1億円）で、生地を14枚重ねて紫外線や宇宙ゴミからの損傷を防止しています。もう少し詳しく言うと開発費は、宇宙服アセンブリ（Space Suite Assembly: SSA）43セット、生命維持システム（Life Support System: LSS）13セットを製造するのに1億6,700万ドル（1ドル=120円換算で約200億円）かかりました。なお、船外活動用宇宙服はパーツ毎にいくつものサイズが用意され、宇宙飛行士の体格に合わせて、パーツを交換します。また、グローブは宇宙飛行士毎に用意され、片方20,000ドル（約220万円）します。宇宙服の下には水を循環するチューブを組み込んだ冷感スーツを着ています。チューブは何と84mにもなるそうです。

はやぶさがイトカワに着陸して試料を採取するのは、日本からブラジルの直径6cmの的を射る程の確率だそうです。我々の身近なところでも宇宙の技術が応用されています。例えば、

- ① カーナビ（GPSの応用）。
- ② サングラス（宇宙服のヘルメットに使用している紫外線カット技術の応用）。
- ③ エアバッグ（火星探査機を着陸させる時に開発した技術を応用。これは折りたたんだ部品を火星等に着陸させ、瞬間的に組み立てる技術で、探査機本体をエアバッグに包み込むことで、本体を保護しています）。
- ④ 缶コーヒー（缶表面の凹凸模様を応用）。この凹凸模様は缶の強度を保持しながら軽量化する技術で、太陽光パネルの為に開発された技術です。缶コーヒー1缶当たり5g軽量化出来たので、2018年には約2900トンの材料削減に成功しました。

宇宙服を着ると、自分では服の前面や周りが見えないので、腕の手首に小さい鏡を貼付けて見ます。だから宇宙服に記載している文字は鏡文字になっているのです。宇宙飛行士の採用試験（不定期）の一つにホワイトパズルがあり、文字や景色等が無く白色のみなので、チップを組み合わせるのに忍耐力が要求されます。また、宇宙船を模した閉空間に約10名が1週間缶詰めになり、共同生活をしながらミッションを達成します。2008年の採用試験では、受験者963名中合格者は3名（倍率321倍）ですが、宇宙飛行士の給与はどの位でしょうか。JAXAの大卒初任給19.9万円と同じです。ロマンを求める人達なのですね。

東京都市大学の講演会（2017.06.18（土）開催）で山崎直子氏（千葉県松戸市出身）の講演を聴きました。「地球自身がまるで生きているかの様な輝きを持っている。」と述べていました。宇宙船は地球の周りをマッハ25で飛行しているので、45分毎に昼夜が切替わるので、1日16回もの日の出・日の入りを味わいます。宇宙船内の暮らして困ったのは、歯を磨く時に普通の歯ブラシに市販のペーストを付けて磨きますが、流し台が無いので口内の物を吐き出すことが出来ません。呑込むことに慣れたそうです。

現在では宇宙食は美味しくなり、通信販売でも購入が出来ます。300種類もあるので、柿の種、羊羹やカレー等も有ります。例えば、1食当たりカレーは540円、ミニ羊羹は380円です。船内活動で擦り傷をすると血が出ますが、直りが遅くなるそうです。先日のインタビューでは、「宇宙とは「ふるさと」で、太陽も地球も私たちの体も、宇宙の星のかけらで出来ている。また、私たちの体にもつながっている。」と述べていました。

【マリナーズの救世主】

イチローの引退会見で述べた「外国人になったことで、人の心を慮り、人の痛みを想像し、今までなかった自分が現れた」「孤独を感じて苦しんだことは多々あった。その体験は未来の自分にとって大きな支えになるだろうと、今を思う」の言葉を覚えていますか。「ザ・スロー (The throw)」(レーザー光線の様)と呼ばれた伝説のプレーです。2001年4月11日でアメリカ大リーグ1年目の対アスレチックス戦で、敵地のオークランド(カリフォルニア州)の時で、くしくも引退試合と同カードです。敵意むき出しのアスレチックスファンで埋まる右翼席の前で、8回の守備に就きました。

日本からの新参者に対し、敵地の人々は遠慮がありません。イチローの背中に罵声を浴びせ、汚い言葉に乗せて物まで投げ入れ、そのうち、イチローの後頭部に硬い何かが当たったといいます。(頭に有ったのは25セント硬貨でした。)一死一塁、相手打者の右前打がイチローの前に転がり、一塁走者は二塁を蹴り、三塁へ向かいました。熱狂した右翼席は、一瞬で言葉を失いました。右腕をしならせたイチローの送球は、お辞儀をすることなく最短距離で三塁手のグラブに納まりました。余分なものを一切そぎおとし、怒りと毒を含んだ直線の軌道を描いて、一塁走者はタッチアウト。「I C H I R O」の名が全米に鳴り響いた瞬間です。

今年の9月に親しい友人が、娘が生活しているカナダ、そして北米を訪ねた際、シアトリマリナーズ球場を訪れました。下記の写真に有る様に現地の説明員が1992年の任天堂元社長の功績を未だに語り継いでいたのです。1992年に任天堂元社長の故山内溥氏が米国任天堂がお世話になったシアトルへの恩返しとして、成績が低迷し経営も振るわずチームの移転の危機にあったマリナーズに7500万ドルの出資(1992年平均130円/ドルとして約97億円)をしました。友人は30年近く前に一人の日本人が行ったことを、シアトルの人々が今も記憶し、感謝の気持ちを持ち続けていることに心を打たれ、日本人として誇らしい気持ちと、それを知らなかった自分自身に恥ずかしい思いをしたと語っていました。筆頭オーナーとなり、日本人として初めて大リーグ球団のオーナーに就任しました。山内氏はマリナーズの経営には一切口をはさみませんでした。ただ一つ注文をつけたのは、「イチローを獲れ」とのことでした。

1992年にマリナーズの筆頭株主となった日本のゲーム会社が球団に残した功績として、地元メディアは2001年にオリックスから獲得したイチロー外野手(現マーリンズ)の補強を挙げています。ESPNが報じたのは、米4大スポーツ各チームの強さ、強化費、チケット代の安さなどファンの満足度をアンケート調査し、全122球団を格付けする企画を行ったことです。マリナーズは前年度から26位もランクアップし、全体の78位となりました。優勝争いでは115位、オーナーの評価は85位、コーチの評価

は 88 位、選手の評価は 95 位など低評価となったマリナーズですが、本拠地セーフコ・フィールドの「スタジアム体験」では 14 位と高評価をゲット。全体では 2015 年シーズンよりも順位を上げました。

地元の特集では、「新しくなったこと」という項目で、任天堂オーナー時代を振り返り、任天堂は地元の 17 のオーナーグループに持ち株を譲渡しましたが、シアトル在住のオーナー体制が生まれたのは、1981 年以來だといいます。任天堂が 1992 年に買収したことで、マリナーズはシアトルからの移転を免れることが出来たと解説していますが、それ以外の功績として、今季メジャー史上 30 人目の通算 3000 安打を達成したイチローの獲得が登場したのです。「任天堂はマリナーズにとっても様々な良いことをしてきた。例えばチームのレジェンドであるイチロー・スズキとの契約だ」と広く広報されました。

マリナーズは 2000 年 11 月、オリックスからポスティングシステム（入札制度）でメジャー挑戦に踏み切ったイチローとの交渉権を獲得。3 年総額 1400 万ドル（約 14 億 5000 万円）で契約を結びました。イチローは 1 年目の 2001 年に圧巻の活躍で MVP、新人王、首位打者、盗塁王を獲得。この年から 10 年連続でシーズン 200 安打、オールスター出場、ゴールドグラブ賞獲得も達成。2004 年にはシーズン 262 安打のメジャー記録を打ち立てたのです。球団の“レジェンド”となったイチローの獲得は、任天堂の大きな功績だと振り返っています。マリナーズはイチローだけでなく、佐々木主浩投手、長谷川滋利投手、岩隈久志投手、川崎宗則内野手、青木宣親外野手ら多くの日本人選手を獲得しました。

しかし、任天堂は 2016 年 8 月 22 日に、米子会社が保有する米大リーグ球団シアトルマリナーズを運営する会社の持ち分の一部を売却することが正式に決まったと発表し、売却額は 6 億 6100 万ドル（約 660 億円）。今後の連結業績に与える影響額については、計算と確認に時間がかかるため確定後に開示するとしたのです。



第6.5節 「墮落論」、代沢小学校の代用教員－坂口安吾

(2020年3月 第25号)

後世に名を残す人にはとかく破天荒な人が多いようです。そうした偉人の生き様を垣間見るのは如何でしょうか。勿論そうでない人も多く居られるでしょうが。

6.5.1 小説家 坂口

1) 食の好み

私のオジヤでは、鶏骨、鶏肉、ジャガイモ、人参、キャベツ、豆類などを入れて、野菜の原形がとけてなくなる程度のスープストックを使用する。三日以上煮る。三日以下では、オジヤがまずい。(略) このスープストックにご飯を入れるだけである。「わが工夫せるオジヤ」より) お判りでしょうか。これは坂口安吾が、酒で胃を痛めてから考案した、特製オジヤです。ご飯はとろける様に柔らかくなるまで30分間も煮込み、スープでご飯を食べる時に、キャベツとベーコンを少量刻んで入れます。味は塩・胡椒で整え、最後は卵をとじ入れ蓋をして蒸らします。そして京都の「ぎぼし」の昆布を乗せて食べます。このオジヤで安吾は体調を整え直したそうです。安吾のもう一つの朝食献立は、魚肉サンドイッチで、トーストにバターを塗り、生鮭を焼いて熱いうちに醤油に投げ入れ、3日程漬けたものを食べるのです。「魚肉とバターが舌の上で混合する味がよろしいのである。」とも書いています。

2) 略歴

坂口安吾は明治39年(1906年)～昭和30年(1955年)、新潟県出身の小説家、評論家です。安吾は新潟の中学校から東京の私立中学校(現・日大豊山高校)に編入しました。そこを卒業する2年前に政治家であった父が死亡し、その財産整理で約10万円の借金が残っているのを知りました。安吾は責任を感じて、教員になることを決意しました。

大正14年(1925年)3月、安吾は卒業と同時に、荏原尋常高等小学校(現・若林小学校)の代用教員に採用され、勤務はその分教場(現・代沢小学校)でした。



(ゴミに囲まれて執筆中)

2年間掃除をしないで紙くずに埋もれた部屋でペンを走らせている安吾が目には浮かびます。「負けラレマセン勝ツマデハ」(税金滞納により差押えを受けた安吾が、何が正しくて何が間違っているかを世に問おうとした日記体のルポ－税務署対策ノートは5冊にもなった)と叫ぶ安吾の声が聞こえてきませんか。

大正14年(1925年)3月31日から1年間、荏原尋常高等小学校(現・若林小学校)の分教場(現・代沢小学校)(註1)の代用教員を勤めました。当時としては全く珍しい汽車を使った遠足を行う等ユニークな教育手法で人気があったようです。その後、東洋大学印度哲学倫理学科を卒業し、アテネ・フランセでフランス語を習得しました。戦後「墮落論」によって文壇に華々しく登場し、「白痴」「外套と青

空」「女体」等は好評を博しました。

)

坂口が流行作家として華やかに活躍したのは昭和 20 年代で、早くから小説家を目指しましたが、時代の脚光を浴びたのは戦後になってからです。

3) 作風

新文学の旗手として矢継ぎ早に発表された作品は、混乱した世相に衝撃的な反響を呼びました。

当時の作品「墮落論」や「白痴」を改めて読み返してみると、人間の裸を見つめ、そこから翻ってくる人間の復元力に信頼と希望を寄せていたのではないかと思います。破滅型の作家として薬物中毒、発狂、入院等で自らを追い詰めました。その八方破れの生命の燃焼の中で、昭和 30 年に 49 歳の若さで急逝しました。

6.5.2 代用教員 坂口

1) 教育哲学

作家としての安吾について多く語られていますが、若い頃に 1 年間だけ代用教員の職にあったことはあまり知られていません。その時代の出来事は彼の自伝的作品「風と光と二十の私と」(「本当の美しい魂は悪い子供がもつてゐる」「どうしても悪いことをせずにあられなかつたら、人を使わずに、自分一人でやれ。善いことも悪いことも自分一人でやるんだ」)の中に描かれています。受け持ったのは男女合わせて 70 名もいる 5 年生。しかし仕方なく先生になった割には、この主人公は子供の心を掴み取り、その生徒がどんな場面で才能を発揮できるかを見抜く力を持っていました。「本当の美しい魂は悪い子供がもっているの、あたたかい思いや郷愁をもっている」「こういう子供に無理に頭の痛くなる勉強を強いることはない」など坂口安吾による子育ての哲学も綴られています。そこには安吾の青春の屈折した悩みと、悟りの境地に憧れて静穏な生活を保とうとする精神とが奇妙に交錯した光景があります。と同時に人間の内面に注ぐ目の鋭さを感じさせます。同僚教師に対しても。小学 5 年の子供に対しても、それは同じです。人間の本能的な姿勢や動きを見逃していません。安吾の完成の自然な動きが見事に捉えられたのでしょう。それだけに、安吾の人間を見る目の温かさを感じさせる好短篇となっています。



(くわえ煙草で外野を守る)

特記するのは授業には新しい試みを取り入れていました。その一つはドッジボールという球技です。安吾の持参した革製の大きいボールが卒業生に強い印象を残した様です。ルールは簡単ですから、生徒はすぐに慣れて熱中しました。次は走る生徒のタイムをストップウォッチで正確に計測しました。対外

的な試合では珍しいことでは有りませんが、授業の中で実施したのは安吾が初めてでした。全生徒が対象だったので、卒業生は今でも牛乳屋の子供が一番早かったと覚えているそうです。そうした背景には安吾が学生時代に野球・柔道・水泳・陸上等の万能選手として活躍し、分教場の体育主任だったことが考えられます。

また、授業には直接関係しませんが、電車（渋谷一逗子）を利用した遠足を実行したのは安吾の時間が初めてで、それ迄はすべて歩く遠足だったのです。その時の記念写真を見ると、場所は逗子海岸です。初夏を思わせる季節なのに、安吾だけが少し暑苦しそうな服装をしています。鳥打帽を被り、真っ白なワイシャツとネクタイが目を惹（ひ）きます。それにレインコート？まで着ているのです。遠足にしてはきちんとして過ぎている感が有ります。当時は羽織に袴（はかま）の多かった時代だったので、洋服ではこれが普通だったのでしょうか。安堵の性格や身の事情から察すると、無造作に毎日着ている洋服を身にまとったのでしょうか。小説を読むと、下宿にはわずかな着替え位と書いています。そして禪（ふんどし）を壁に架けたりする変わった整理方法を取っています。この事は笑い話として父兄の間に広まったそうです。

2) 坂口（阪口）、安吾（炳吾）

現在も保存されている安吾の履歴書から、いくつかのことが分かります。氏名が「坂口炳吾」となっているのも有ります。今はその真偽は別にして、安吾という名前がいつ頃から使われたのか、はっきりしていません。しかし、学校の記念誌等に坂口安吾と記載されていることから察すると、かなり早くから使用していたのではないのでしょうか。更におかしなことは履歴書の印の欄が「坂口」ではなく「阪口」となっています。ただ貴重な文書なので見とがめられそうな気がするの、今の感覚かもしれません。当時は問題にするほどのことではなかったのかもしれませんが、小学校5年生の時に直接教えを受けた方がインタビューで、「炳吾」という安吾の本名を生徒達は知らなかった様です。学校生活では「坂口先生」で要は足りるし、正確な本名を知る必要はなかったのでしょうか。現在でも事情は似ているのではないのでしょうか。次に「阪口」という印は、通信簿にも使用していました。履歴書と全く同じもので、文字の欠けた部分も合致しています。ここにも時代の暢気さが有る様で、安吾も平気で「安吾」と署名し、「阪口」という印を使用していたのでしょうか。

（写真家の坂口綱雄は晩年に生まれた一人息子です。）



（お酒でいい気持ち）

人生を豊かに（雑学の進め）

映画「カサブランカ」を覚えていますか。あの幕切れの場面で、死刑のリスクを冒して、リック（ハンフリー・ボガード）が、かつての恋人（イングリット・バーグマン）とその夫ラズロを亡命させるところは人の心を捉まえてやみません。あの亡命するラズロは、反ナチスの地下運動のリーダーで、米国

に逃避しようとしている設定です。実は、あのモデルは、カレルギー・クーデンホフで、有名なクーデンホフ光子の次男です。ヨーロッパ合衆国を提唱し、ヒットラーに嫌われ、米国に亡命した EU の生みの親とも言われている人でした。クーデンホフ家は代々美男子の家系で、カレルギー夫人は有名映画俳優でした。

光子は、明治時代に社交場として評判の高かった芝の料亭紅葉館の女中として働いていましたが、紅葉館を辞して自宅で暮らしていました。ある冬の日、オーストリアの外交官が、乗っていた馬が氷で滑った際に落馬して負傷した際、彼女の手厚い看病にその外交官が感激して、結婚することになりました。その外交官は、オーストリアの駐日外交官ハインリッヒ・クーデンホフ伯爵で、光子は伯爵夫人としてオーストリア社交界の人となりました。 ゲラン社の発売している香水「ミツコ」は、彼女の名前をとって命名されたと言われています。

耳寄り情報

高嶋ちさ子（バイオリニスト 知佐子 1968年8月24日生）の父の話です。

ある日、オールスタッフの岩崎さんが、1本のテープを持ってきました。彼女は映画評論家・岩崎昶さんのお嬢さんで、東芝のディレクター時代は、いずみたく。永六輔と組んでデュークエイセスの日本の唄シリーズを作りあげたギリシャ系美人です。そのテープの中には、いずみたくが作曲する CM ソングを数多く歌っている女性の声が入っていました。聞けば、元・童謡歌手で名前は安田章子です。テープの声は申し分なく美しく、すぐに彼女と会ったところ 20 歳を少し超えた頃に見え、ジュンや若い学生を手掛けた私には、ずいぶんと大人の歌手に見えました。しかし、とても上品なので、流行歌主として続かなかと思いました。

面会時の彼女はピンクがさした笑顔で、東芝の裏手の電気工業会館でのことです。企画の打合せで、いずみたくさんは上品なお色気の歌を作りたいと主張し、2曲を彼女にあてました。3曲目はいずみさんのリクエストで、当時 TBS の番組「夜のバラード」のテーマを入れて、上品なお色気の歌が出来上がりました。しかし、ピンと来ませんでした。色気は自然と滲み出るもので、狙って出せるものではありません。狙って出せるのは、下品なお色気です。

初めはあまり当てにしていなかった「夜のバラード」のテーマが浮かび上がって来ました。番組で評判を呼んでいましたが、演奏物で流れていました。安田章子の企画なので、歌なしではなく、結局ワン・コーラスをルルルとしました。三曲完成したのを聞いても、やはり「夜のバラード」しか勝負曲がありませんでした。タイトルは岩崎さんと考え、ワン・コーラス歌詞がないので、「夜明けのスキヤット」としました。1926年頃に録音中のルイ・アームストロングがとっさの機転で編み出したといわれるジャズの一つの唱法スキヤットとは少し違いますが、雰囲気は「よかったです。芸名の由紀さおりは岩崎さんが命名しました。

当初は TBS から放送されましたが、不思議なことに他局からも流れ出し、初回 5,000 枚だった「夜明けのスキヤット」はプレス・オーダーを増やしながら、とうとう発売日には 20 万枚に膨れ上がりました。ついにミリオン・セラーになりましたのは、ご存じと思います。

第6.6節 「自然の中の教会」－賀川豊彦

(2020年05月 第27号)

6.6.1 キリスト教社会活動家

賀川豊彦。1888年（明治21年）～1960年（昭和35年）。兵庫県出身で、キリスト教社会運動家です。彼は学生時代に徳富蘆花の講演を聴き、訪れても会えなく、手紙を出しても返事を頂けませんでした。彼の自伝小説「死線を越えて」を読んだ徳富蘆花は加賀豊彦に手紙を出し、1924年（大正13年）の八王子講演に行く途中で粕谷の賀川を訪れました。その時の徳富蘆花の熱心な勧めで松沢（世田谷区上北沢3-8-19）に居を設けましたが、落ち着かず、伝道・労働運動・協同組合活動に飛び回りました。

1905年（明治38年）賀川豊彦は中学校卒業を目前にして、軍事教練の時間、突然銃を地面になげ出して、「人殺しのまねはいやだ」と叫んだことがありました。怒り狂った教官は、その顔をなぐりつけ、足蹴にし、校庭に倒れ、血に染まってうめいていた賀川は、自己を平和主義者の一人として任じて悔いは有りませんでした。

賀川豊彦は1914（大正3年）年にプリンストン大学へ、ハル夫人は横浜共立女子神学校へ神学研究のため入学し、1916（大正5年）年にプリンストン大学からB.D.を受けました。

1917年（大正6年）アメリカから帰国すると、直ちに神戸のスラムにもどって、キリスト教伝道と社会事業をはじめた。プロテスタントの熱心な牧師だったので、説教壇からキリストの教えを説き、人間の魂の救済に熱弁をふるいました。大正時代の日本は貧しい人々が数多いました。都市にはスラム街があり、貧困と犯罪と疫病が巢食い、農村は貧しく、ひとたび凶作に襲われると、多くの農民が日々の食料にも事欠く有様でした。労働者の待遇は、今とは比較にならない程、悪かったのです。しかし、社会福祉の言葉すら、当時には有りませんでした。人も国家も貧しかったのです。



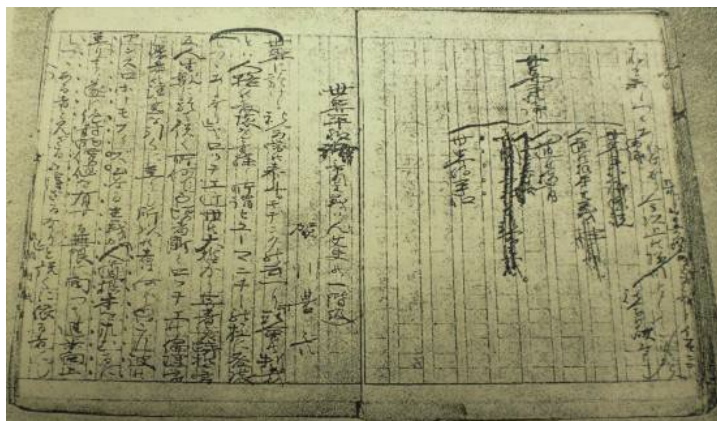
(神戸のスラム街)

賀川豊彦はこのような状態を看過出来ませんでした。社会の底辺で苦しむ人々の中で働くのが、宗教家としての自分の務めと考えていました。そこで加賀豊彦はスラムの街角で伝道し、貧民救済事業を起こし、日本の労働組合の母体である友愛会の役員として活躍しました。また、日本農民組合の結成に参加したり、生活協同組合や保険制度の基礎を築きました。

6.6.2 小説家

賀川豊彦は、単なる行動の人ではなく、小説の一つ「死線を越えて」はベストセラーになり、神戸新川のスラム街での伝道生活が描かれ、売春、ゆすり、賭博等の罪悪と戦い、信仰を広める捨て身の体験が身に迫ります。1920年（大正9年）にこの小説が発表されると、読者の心を大きくとらえ、発行部数は数十万部に達し、十数か国語に翻訳された名著です。

賀川豊彦の世田谷とのかかわりあいは、1924年（大正13年）に遡ります。この年3月、賀川は北多摩郡千歳村の徳富蘆花が田舎生活をしている粕谷を訪れました。徳富蘆花の小説「不如帰」は、結核の為引き裂かれる夫婦の悲劇を描き、多くの読者を得ました。賀川豊彦が貧困という社会の病を描き、大正期で最も売れた著者になったのに対し、徳富蘆花は結核という当時の不治の病を描き、明治時代のベストセラー作家になりました。



賀川豊彦も若い頃、「不如帰」を読み、心を動かされた一人で、明治学院大学で神学を学んでいる時、勉強の無理がたたりに、肺結核になりました。そこで、死を覚悟し、短い生涯を有益に送る為、神戸のスラム街で伝道に従事したのです。そこで得たのは、「死を飛び越えて、神秘の世界に突き込んでいると云う一つの信念」で、これにより病を克服したのです。

その活躍ぶりを徳富蘆花は、賀川豊彦の著作を読んで知り、若い頃受洗してキリスト教の伝道に出たことを思い出しました。徳富蘆花の信仰は常にぐらつき、父に対する憎しみ、兄・徳富蘇峰との確執等によって、徳富蘆花の心は内向しました。そこから見ると、破産した実業家の私生児に生まれながら、まっすぐな信仰の道を歩む賀川豊彦は、見所が有る人物でした。徳富蘆花は仲睦まじい夫婦に子供が生まれないことを、以前からかなり苦しめていたので、後継ぎを探していました。

1922年（大正11年）、神戸湊川（みなとがわ）教会で聖書の講義をしていた賀川豊彦を、徳富蘆花は不意に訪れ、「僕の顔を覚えているか。親の顔を見ろ。親の顔を知らんものがあるか」徳富蘆花の奇妙な挨拶に、賀川豊彦は戸惑うばかりでした。翌々年の粕谷での再開の時、賀川豊彦は35歳で、神戸で自ら始動した川崎・三菱両造船所の労働争議が敗北したこともあり、社会運動の一線から退いて伝道活動に重点を移す頃でした。

1923年（大正13年）の関東大震災の時に上京して、下町の被災者の救済をきっかけに、消費組合運動を東京に広げました。結核で死にませんでした。肺の調子は依然悪く、スラム街で感染したトラホームが悪化して失明の危険が有りました。更に、腎臓にも障害が有ったのです。しかし、活動の意欲は衰えないで、全国を巡り「百万人救霊運動」を始めようとしていました。

徳富蘆花を訪問したのも、旅の途中に立ち寄っただけのことでしたが、徳富蘆花に熱心に勧められた隣の村、荏原郡松沢村に引越し、1926年（大正15年）迄住みました。当時、この村は人口七千人程の近郊農村で、十年程前に開通した京王電車が田畑をまっすぐに突っ切っていました。賀川豊彦は近くの祖師谷に武蔵野農民福音学校を開きました。これは賀川豊彦が全国に作った一種の寺子屋で、聖書を講読し、農業技術の指導と共に同組合の復旧に当たりました。

1927年（昭和2年）に徳富蘆花は旅先の伊香保で死去し、その翌々年、ふたたび松沢村に戻った賀川豊彦は、現在の上北沢に教会堂を建てました。また、武蔵野の面影を残す小さな森陰（もりかげ）に住居を構えました。

全国各地を巡り、荒廃した農村も見ては胸を痛めた賀川豊彦にとって、伝道の合間に体と心を休め、また信仰を求める人々を迎える場所として、この場所はうってつけでした。賀川豊彦の足跡は外国にも及び、海外伝道の旅は戦前戦後を含め18回にもなり、戦後は世界連邦政府の樹立を訴え、その名は海外にも知られ、晩年にはノーベル平和賞の候補と目されました。

森陰の自宅の周りの森の新芽を見かけると、ハル夫人が摘み、火で煎って新茶をたました。賀川豊彦は宗教・哲学・文学・自然科学・農林水産や小説以外にも、詩集や歌集を出し、生涯に200以上の著作を著しました。1959年（昭和34年）1月、老体に鞭打って伝道に出た賀川豊彦は、高松で心筋梗塞に倒れ、自宅で療養生活に入りました。30年住むうちに、自宅周囲の風景は変わり、住宅が立ち並び茶の木は切り倒されていました。

だが、春になると、庭の八重桜の木の下に1本だけ茶の木が生えているのを夫人が見つke、賀川豊彦は久しぶりに手製の新茶を味わいました。そして、「私は一杯の茶碗に盛られた茶をすすりながら、神の与え給う新しき春の香りに酔うた」と書き記しました。賀川豊彦の永久の休息が訪れたのは、1960年（昭和35年）の4月のことでした。



（バートランド・ラッセルと賀川豊彦）

賀川記念館(かがわきねんかん)は、1909年に始められた賀川豊彦とその仲間たちによる働きと志を引き継ぎ、コミュニティセンターとして地域福祉に努め、平和を望み、共に生きる社会をつくることを目的として設置されました。（神戸市中央区吾妻通 5-2-20）

（参考：永瀬淑子氏 写真は Yahoo JAPAN から引用）



風の旅人 (松沢教会内部)

人生を豊かに (雑学の進め)

スーパーに買い物に行くと、入口に野菜を陳列している場合が多いですね。野菜⇒魚⇒肉⇒加工食品⇒惣菜⇒レジが多いでしょう。その日の献立が決まっていない時は、反対の総菜コーナーから買い物を始めると良いです。最初に野菜を見て、買っておくと思えるかなと思いながら、つい安売りの野菜を買っていませんか。まず、惣菜コーナーで献立を考えてから買い物を始めると無駄がありません。

東京ガスが行った「生活分野別調査」(2015年)では、主婦の8割が「毎日の献立を考えることは面倒」と回答しています。子育て、家事パートと、かなり忙しいのです。その合間に献立を考えることは、苦痛でしょう。

献立を考えないでスーパーに行くと、美味しそうに見えませんか。スーパーではネット販売が増え、イトーヨーカドーではオーダー後、最短4時間で約3万項目の中からオーダーした品物を届けてくれます。16時から17時を除く23時間営業です。そこに申し込みをすると、入会金や年会費は無料です。

配達料金は330円/回(税込み)ですが、子育て中のママは102円(税込み)です。nanacoポイントは付きますが、IYカードのポイントは付きません。自分のゆっくりした時間が持て、買い過ぎも防げます。チラシで特売品も選べます。是非、お試し下さい。(参考：萩原博子氏)

第6.7節 放浪記—林芙美子

(2020年08月 第30号)

故郷と言える場所を持たず、飢えと絶望に苦しむ自伝的小説の作者が一時世田谷の太子堂に住んでいました。その人となりを紹介します。

生前、色紙等に好んで描いていたのは、有名な『花の命は短くて苦しきことのみ多かりき』です。林芙美子は明治36年(1903年)～昭和26年(1951年)の生涯を小説にかけた山口県出身の小説家です。大正14年(1925年)に世田谷区太子堂(三軒茶屋駅下車)円泉寺の近くに居(世田谷区太子堂3-29)を構えていました。

閑話休題 太子堂の名は、円泉寺境内にある聖徳太子像(伝・弘法大師作)を安置した太子像に由来する。文禄4年(1595)、大和国の久米寺(今の奈良県橿原市)より太子像と十一面観世音像を背負って関東に下った真言宗の賢恵僧都は、この他の民家に一泊した際、夢に聖徳太子が現れたという。夢のお告げを受けて賢恵和尚が本堂と聖徳太子堂を建てたのが、円泉寺の由来とされている。今は泉が湧き出していないが、名前の通り、この辺りはかつて霊泉の湧き出る清浄な地だった。また、太子像は難病を治す靈験があるといわれ、参詣する人でにぎわったとされる。

閑話休題 三軒茶屋の名は、江戸中期以後、今の世田谷通り・玉川通りの分岐点の三叉路にできた「しがらき(のちに石橋楼)」「田中屋」「角屋」の三軒のお茶屋に由来する。民衆の間で「大山詣」が盛んになった頃の話である。不動明王座像を乗せた三叉路の道標は、今も同地に残されている。

大正14年(1925年)の世田ヶ谷町(当時)の人口は8,600人余で、太子堂界限は畑と竹藪だらけの所でした。当時は農業が主の町で、肥桶(こえおけ)を乗せた牛車がゆっくり通う農道の延長には、少しの雨でも露地裏は泥んこになるので、まさに泥沼の船の様な太子堂の家とも感じ取れますね。当時は安普請の貸家が多く、お金が少ない文士達が住むには格好の場所でしょう。文士の生活は更に貧しかったと容易に想像出来ます。そして、昭和5年(1930年)、暗い人生経験を日記体で記した小説「放浪記」がベストセラーになりました。

実父は宮田麻太郎、母はキク。麻太郎が認知しなかったので、娘は『林フミ子』として、母方の叔父の戸籍に入りました。麻太郎は下関で安売りやテキ屋で当て、明治40年(1907年)若松市(現・北九州市若松区)へ移って繁盛しましたが、浮気して母子は明治43年(1910年)、番頭の沢井喜三郎と家を出ました。養父と母は北九州の炭坑町を行商して回り、芙美子の小学校は長崎・佐世保・下関と変わり、喜三郎は下関で古着屋を営んで小康を得ましたが大正3年(1914年)倒産し、11歳の芙美子は本籍地の鹿児島に預けられたのち、旅商の両親に付いて山陽地方の木賃宿を転々としました。大正3年(1914年)10月(11歳)、石炭産業で栄えていた現在の福岡県直方市に移り住んでいます。

林芙美子が世田谷の太子堂に大正14年(1925年)頃住んでいたことを知る人は、案外少ないのでは

ないでしょうか。小説家壺井栄の「はたちの芙美子」には、太子堂の二軒長屋に芙美子と隣同士に住んでいた頃のことを書かれています。芙美子は詩人野村吉哉と住み、彼女自身詩や童話を書き、貧乏なその日暮らしをしていました。平林たい子の小説「林芙美子」(1969年新潮社刊)にも貧乏生活のことは克明に記されています。

「放浪記」を読むと、坂道やモーターの音の記述が有り、尾道を思い出させるのでしょうか。尾道は坂と海の見える街で、芙美子の郷愁の原点です。芙美子は半ば現実を見、半ば想念世界を眺める夢多い少女でした。玉川電車を見ると、「電車に乗る人か何かのように立ってはいたけど」と書いてありますが、間違いなく玉川電車を見ていたのです。芙美子は鉄道ファンでした(今で言う「鉄女」)。汽車で各地へ行商して歩いた過去は、汽車への愛着を深くしました。行商していた彼女の義父は汽車旅の名人で、車窓から街を見ただけで自分の商品が売れるかどうか判ったそうです。儲かると思って下りた尾道、そこに放浪者はしばし居着いたのです。坂と海と寺のある尾道は、芙美子にとっては忘れがたい街でした。

最後に、「放浪記」の冒頭です。「私は宿命的に放浪者である。私は古里を持たない」と語った様に、九州各地を点々とし、そして尾道にたどりつき、彼女は女中や帆布縫製のアルバイトをしながら尾道高女に通いました。高女に通うというのはまれな時代で、やっと卒業して上京しました。若い情熱がほとばしる、男性との恋を重ねるが、うまくはいかない。下足番、宛名書き、夜店の手伝い、代書、女中、売り子、女給という職業遍歴を重ねる。その間、詩や童話を書きました。

何冊かの粗末な日記帳を、芙美子は23歳で結婚した画家である夫手塚緑敏にさえ、終生読まれぬよう隠し、いつか処分したようで、死後も出てはこなかったそうです。幼少の折から恐ろしき貧しさを強いられた芙美子の、心身に染み付き渡った貧困回避欲求がもたらした勤勉さの生涯だったのでしょう。



1951年4月に撮影(47歳)



おことわり 御存知でしたかは 北条重時の家訓として第12章に掲載しました